

ロームシアター京都

自主事業ラインアップ — 2020.4 — 2021.3

ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都 2020 年度 自主事業ラインアップ 変更点のお知らせ

(2020 年 4 月 20 日時点の情報)

今回のご案内に同封しております、「ロームシアター京都 2020 年度 自主事業ラインアップ パンフレット」の内容につきまして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、以下の点について変更が生じております。あわせてご確認くださいませようお願いいたします。

また、今後も状況によって、内容に変更が生じる場合がありますので、最新情報はお問合せいただくか、当劇場 WEB サイトをご確認ください。

ページ	事業名	変更内容
P.02	ぐうたららばい vol.2『海底歩行者』	中止
P.03	能の世界へおこしやす および 第 71 回京都薪能	中止
P.03	能楽チャリティ公演	チケット発売日変更 6 月 20 日（土）発売予定
P.04	地点『君の庭』	上演形態等を検討中 ※なお、これに伴い、松田正隆作・演出『シーサイドタウン』（P.05）とのノースホール演劇セット券の販売を取りやめます
P.04	木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』	チケット発売延期（9 月発売予定）
P.06	名和晃平×ダミアン・ジャレ 『PLANET 〈wanderer〉』	中止 （2021 年度以降に延期予定）
P.08	フランソワ・シェニョー&ニノ・レーネ 「不確かなロマンス —もう一人のオーランドー」	チケット発売延期（9 月発売予定） ※なお、名和晃平×ダミアン・ジャレ公演中止に伴い、コンテンポラリーダンス演目セット券の販売を取りやめます
P.14	プレイ！シアター in Spring 2020 ステージプログラム	全プログラム中止 （開催延期を検討中）
P.15	プレイ！シアター in Summer 2020 ステージプログラム『快傑ゾロ』アルファ人形劇場	チケット発売延期 （6 月発売予定）
P.15	プレイ！シアター in Summer 2020 オープンデイ 京都市交響楽団 0 歳からの夏休みコンサート	チケット発売延期 （時期検討中）

【ロームシアター京都 公式 WEB サイト】

<https://rohmtheatrekkyoto.jp/>



【電話でのお問合せ】

ロームシアター京都 TEL.075-771-6051（10:00～17:00）

ロームシアター京都
2020年度 自主事業ラインアップ

この度ロームシアター京都は、2020年度の自主事業ラインアップを発表します。

京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、2016年1月にオープンしたロームシアター京都は、早くも2021年1月に開館5周年を迎えます。そこで2021年1月～3月の期間は「ロームシアター京都開館5周年記念事業」と題し、これまで培った経験とネットワークを総動員して、特色ある事業を展開します。もちろん1年間を通じ、これまで同様に洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けするとともに、劇場の財産となる作品のプロデュースや、次代を担う芸術家の育成にも引き続き取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代やバックグラウンドの違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会いを生み出します。

日常的に劇場へ人々が集うとはどういうことでしょうか？ その姿を目指してオープンに漕ぎつけ、実際に日々多くの方にお越しいただき、現実のものとなった今、その意味について改めて考えるときに来ているように思います。

ロームシアター京都は施設としてだけでなく、内容としても開かれた場でありたいと考えてきました。内容として開かれているというのは、様々な興味・関心からアクセス可能だということです。また、大きな声、多数の声だけでなく、そうではない声にも耳を傾け、拾い上げていかななくてはならないということです。そうすることで、全ての人にとって思わぬ出会いのきっかけを用意することができ、さらに新たな対話を生み出していける…。ロームシアター京都で生まれた日々の営みが蓄積され、そこに人々が関心を寄せるサイクルは徐々に生まれ始めています。次の5年、そして10年を想像したとき、このサイクルが外へ広がっていくことを夢見ます。ロームシアター京都を訪れた人、関わった人が別のフィールドに移ったとき、ここで得た経験が作用し、何か新しい気づきや変化が促されるとしたら…と考えるのです。そのようにして、じわじわと「劇場の何か」が世の中に波及していくとすれば、それこそが「劇場文化」だと言えるのではないのでしょうか。

プログラムディレクター 橋本裕介

月	日	会場	事業名	ジャンル
5	19 ^[火]	サウスホール	第350回 市民寄席	演劇
	23 ^[土] 、24 ^[日]	ノースホール	ぐうたららばい vol.2『海底歩行者』	演劇
6	1 ^[月] 、2 ^[火]	メインホール	能の世界へおこしやすー京都薪能鑑賞のための公開講座ー	演劇
	1 ^[月] 、2 ^[火]	平安神宮 (雨天時:メインホール)	第71回 京都薪能ー地・水・火・風・空ー	演劇
7	10 ^[金] -12 ^[日]	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 1 中川裕貴	総合
	21 ^[火]	サウスホール	第351回 市民寄席	演劇
8	9 ^[日]	ノースホール	プレイ!シアター in Summer 2020 ステージプログラム『快傑ゾロ』	総合
	15 ^[土] 、16 ^[日]	ロームシアター 京都全館	プレイ!シアター in Summer 2020 オープンデイ	総合
	20 ^[木]	サウスホール	能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～	演劇
9	14 ^[月] -22 ^[火・祝]	ノースホール	地点『君の庭』■	演劇
	26 ^[土]	サウスホール	第352回 市民寄席	演劇
10	10 ^[土] -11/3 ^[火・祝]	ロームシアター 京都 ほか	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2020	総合
	27 ^[火] 、28 ^[水]	メインホール	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2020『魔笛』	音楽
	未定	ローム・スクエア	OKAZAKI PARK STAGE 2020	総合
11	上旬	サウスホール	ロームシアター京都 レパートリー作品 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』	演劇
	18 ^[水] 、19 ^[木]	サウスホール	名和晃平×ダミアン・ジャレ 『PLANET <wanderer>』▲	舞踊
	19 ^[木] -23 ^[月・祝]	メインホール	バルコ・プロデュース2020“ねずみの三銃士”第4回企画公演 「獣道一直線!!!」	演劇
	24 ^[火]	サウスホール	第353回 市民寄席	演劇
12	5 ^[土] 、6 ^[日]	サウスホール	フランソワ・シェニョー&ニノ・レーネ 「不確かなロマンス—もう一人のオーランドー」▲	舞踊
	第1週	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 2 シラカン	総合
	10 ^[木] -13 ^[日]	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 3 スペースノットブランク	総合
12 2021	10 ^[日]	メインホール	シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 「雅楽」★●	音楽
	17 ^[日]	メインホール	京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」★●	音楽
	24 ^[日]	サウスホール	第354回 市民寄席★	演劇
	下旬	ノースホール	ロームシアター京都 レパートリーの創造 松田正隆作・演出『シーサイドタウン』★■	演劇
2	19 ^[金] 、20 ^[土]	ノースホール	サンガツ「¿Music?」	音楽
3	19 ^[金] 、21 ^[日]	メインホール	小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX G.プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」★	音楽
	28 ^[日]	メインホール	ハンプルク・バレエ団 「ベートーヴェン・プロジェクト」★●	舞踊

主催

能の世界へ
おこしやす
— 京都薪能鑑賞のための公開講座 —

日時

6月1日〔月〕
2日〔火〕
14:00開演(両日)

会場

メインホール



京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開
レクチャーを今年も実施いたします。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の
後に、ダイジェスト版の能も鑑賞していただけます。

出演 | 京都薪能出演能楽師

全席自由 無料/京都薪能チケットを持参の場合は申込不要、当該公演のみ参加の
場合は要事前申込 (4月24日(金)～5月26日(火)まで、京都いつでもコール (661-3755) にて
受付 ※5月27日(水)～29日(金)は、京都市文化市民局文化芸術企画課 (366-0033) にて受付)

主催 | 京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

共催

日時

6月1日〔月〕
観世流能「竹生島」
観世流能「葵上」
大蔵流狂言「水掛髯」
金剛流能「土蜘蛛」

日時

6月2日〔火〕
観世流能「白鬚」
金剛流能「松風」
大蔵流狂言「神鳴」
観世流能「土蜘蛛」



全席自由 前売券 4,000円ほか [4月25日(土) 一般発売開始]

主催 | 京都市、一般社団法人京都能楽会

共催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

共催

能楽チャリティ公演
— 被災地復興、京都からの祈り —

日程

8月20日〔木〕

会場

サウスホール



被災地の復興を支援するため、京都在籍の能楽
師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

第一部 10:30開演

演目・出演 | 能「羽衣」 シテ(片山九郎右衛門)
狂言「鬼瓦」 シテ(茂山千五郎)
能「項羽」 シテ(河村和貴)

第二部 18:30開演

演目・出演 | 能「清経 替之型」シテ(田茂井廣道)
狂言「柑子」 シテ(茂山逸平)
能「鶴 白頭」 シテ(橋本光史)

全席自由 1,500円 [6月1日(月) 一般発売開始]

主催 | 京都在籍能楽師有志

共催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、国際交流基金京都支部

演劇 / THEATER

主催

市民寄席



口上 (撮影: 佐々木卓男)

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。また第354回はロームシアター京都開館5周年記念事業として、祝いの口上を含む、華やかな番組をお贈りする予定です。

第350回 日時: 5月19日〔火〕 19:00開演

番組 | 「大安売り」月亭遊真、「大血脈」桂 阿か枝、
「新まんじゅうこわい」笑福亭岐代松、「猫の忠信」桂 米團治

第351回 7月21日〔火〕 19:00開演

第352回 9月26日〔土〕 13:30開演 第353回 11月24日〔火〕 19:00開演

第354回 2021年1月24日〔日〕 13:30開演 *ロームシアター京都開館5周年記念事業

全席指定 第350回、第351回、第353回 | 前売1,800円/当日2,000円/ユース(25歳以下)1,500円
第352回、第354回 | 前売2,300円/当日2,500円/ユース(25歳以下)1,500円
年間席礼 | 8,000円 (完売) [第350回: 発売中]

会場

サウスホール

主催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

糸井幸之介の個人ユニットによる 2作目は、海底を歩いているような 夫婦の心を描く二人芝居。

ロームシアター京都のレパートリー作品・木ノ下
歌舞伎『心中天の網島』『糸井版 摂州合邦辻』
の演出も担う気鋭の作家・演出家 糸井幸之介
(FUKAIPRODUCE羽衣)の個人ユニットが2012
年以来、2度目の京都公演を行います。実力俳優
を揃えた“大人な”二人芝居にご期待ください。

作・演出・音楽 | 糸井幸之介

出演 | 伊東沙保、キムユス (FUKAIPRODUCE羽衣)



ぐうたらばい vol.1「観光裸」より

糸井幸之介 / Yukinosuke Itoi

1977年東京生まれ。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE羽衣の全作品で
作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合
した独自の作風を“妙—ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジ
ナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔” 2008年度舞台芸術部
門受賞。FUKAIPRODUCE 羽衣第 22回公演『瞬間光年』(2017年上演) にて第 62回
岸田國士戯曲賞最終候補。多摩美術大学講師。公益財団法人セゾン文化財団シニア
フェロー。木ノ下歌舞伎では、2015年『心中天の網島』初演、ロームシアター京都 レ
パートリーの創造として、17年『心中天の網島—2017リクリエーション版—』、18年『糸
井版 摂州合邦辻』で演出・音楽を務めた。



全席自由 一般3,000円/ユース(25歳以下) 2,000円 [発売中]

主催 | ぐうたらばい、合同会社10月17日 共催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

共催

『ぐうたらばい vol.2 海底歩行者』

日時

5月23日〔土〕
24日〔日〕
15:00開演
(両日)

会場

ノースホール

主催

「獣道一直線!!!」

パルコ・プロデュース2020



生瀬勝久・池田成志・古田新太
による企画に宮藤官九郎、
河原雅彦が加わった演劇シリーズ
“ねずみの三銃士”、ついに
ロームシアター京都に見参!

名優・生瀬勝久、池田成志、古田新太が「今、一番やりたい芝居を上演したい」と企画した“ねずみの三銃士”に人気脚本家の宮藤官九郎、演出家の河原雅彦が加勢し、演劇としてシリーズ化したプロジェクト。6年ぶりにがっぷり組んでのシリーズ最新作となる「獣道一直線!!!」は前3作同様に、ねずみの三銃士のネタをベースに、宮藤官九

郎が新作を書き下ろし、お楽しみのゲスト俳優を迎え、河原雅彦が演出します。

日程

11月19日[木]
-23日[月・祝]

会場

メインホール

作 | 宮藤官九郎 演出 | 河原雅彦 出演 | 生瀬勝久、池田成志、古田新太 ほか

料金・発売日未定

企画 | ねずみの三銃士 プロデュース | 株式会社パルコ 主催 | サンライズプロモーション大阪
共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

現代演劇のキーパーソン、松田正隆によるレパートリー作品。
出身地・長崎をめぐる物語を創作します。

時代を超えて末永く上演される劇場のレパートリー演目を製作することを念頭に、2017年から継続して取り組むプロジェクト「レパートリーの創造」。第四弾は、長らく京都を拠点に活動を続けてきた劇作家・演出家の松田正隆氏に、ロームシアター京都の新たなレパートリー作品を委嘱します。自身が代表を務めるマレビトの会では、新しい演劇のつくり方を探求し、近年は形式としても実験性の強い作品を発表してきた同氏が、今回は自身の出身地である長崎を題材に、満を持して新作戯曲を書き下ろします。松田氏は後進育成や若い世代との共同作業にも積極的に取り組んでおり、今回も出演者の公募／オーディション(予定)を通して、新たな才能との出会いを生み出していきます。また、創作のプロセスを随時公開し、作品が出来ていく過程も共有することで、劇場で作品を創ることの意味や魅力をよりお伝えしていきます。

作・演出 | 松田正隆 (劇作家・演出家・マレビトの会代表)

あらすじ | この国の西の果て、海辺の町(N市)。一軒の空き家に一人の男(シンジ)が住みはじめる。シンジは東京で職をなくし行き場を失い、故郷に帰ってきた。荒廃していく地方の町で、地縁と血縁が重くのしかかり、人と人の関係は変わらない。シンジもまた、その関係性に戻っただけの生活を送る。けれども、「何かの兆し」は常に現れ、人々はそれを感じ取っていく。

松田正隆／Masataka Matsuda

1962年、長崎県生まれ。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、99年『夏の砂の上』で読売文学賞を受賞。2003年「マレビトの会」を結成。主な作品にフェスティバル・トーキョー2018参加作品『福島を上演する』など。2012年より立教大学現代心理学部映像身体学科教授。2019年ロームシアター京都自主事業「劇場の学校プロジェクト」演劇コース講師も務める。



日程

2021年
1月下旬

会場

ノースホール

全席自由 一般3,500円／ユース(25歳以下)2,000円／高校生以下1,000円 [9月19日(土)一般発売開始]
■ノースホール演劇セット券対象公演 (通常7,000円⇒6,000円) ※6月20日(土)発売

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

地点『君の庭』

日程

9月14日[月]
-22日[火・祝]
予定

会場

ノースホール



『山山』2018年 撮影：松見拓也

『山山』2018年 撮影：松見拓也
年初演『山山』に次いで松原俊太郎が書き下ろすのは、あらゆる主張・感情・言説・トリックを伴う言葉を述べる場としての「法廷」に注目した法廷劇。『忘れる日本人』ではつづやきを、『正面に気をつけろ』では叫びを、『山山』では呼びかけを模索した作家と劇団が、次は現代日本の「陳述」を通じて新たな「地点語」を模索します。

作 | 松原俊太郎 演出 | 三浦基
出演 | 安部聡子、石田大、小河原康二、窪田史恵、小林洋平、田中祐気

あらすじ | 沈黙と禁忌を破って子は親を訴えた。親は国を訴えるほかなかった。法廷で「ファミリー」に対面する観客たちは、被告人か弁護人か、あるいは？ 果たして判決はくだされるのか…。

全席自由 一般3,500円／ユース(25歳以下)2,000円／高校生以下1,000円 [6月20日(土)一般発売開始]
■ノースホール演劇セット券対象公演 (通常7,000円⇒6,000円)

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

『糸井版 撰州合邦辻』

ロームシアター京都

レパートリー作品



ロームシアター京都 レパートリーの創造 木ノ下歌舞伎 糸井版 撰州合邦辻 2019年2月 撮影：東直子



「レパートリーの創造」シリーズ第二弾作品、早くも再演決定！
古典と現代が往来するダイナミックな舞台がふたたび。

ロームシアター京都の「レパートリーの創造」シリーズ第二弾として、2019年2月に上演された本作。演出、補綴、キャスト、スタッフ一丸となって壮大なスケールで描いた話題作を早くも再演します。今回は初演の成果をさらに進化／深化させるべく、木ノ下、糸井による増補と新曲の書きおろしに挑みます。キャスト・スタッフの顔ぶれも新旧融合し、2020年という節目の年に、新たな物語を刻みつけます。

作 | 菅専助、若竹笛躬 監修・補綴・上演台本 | 木ノ下裕一
上演台本・演出・音楽 | 糸井幸之介 (FUKAIPRODUCE羽衣)
音楽監修 | manzo 振付 | 北尾亘 出演 | 内田慈、武谷公雄、西田夏奈子 ほか

あらすじ | 大名・高安家の跡取りである俊徳丸は、才能と容姿に恵まれたがゆえに異母兄弟の次郎丸から疎まれ、継母の玉手御前からは許されぬ恋慕の情を寄せられていた。そんな折、彼は業病にかかり、家督相続の権利と愛しい許嫁・浅香姫を捨て、突然失踪してしまう。しばらくして、大坂・四天王寺に、変わり果てた俊徳の姿があった。彼は社会の底辺で生きる人々の助けを得ながら、身分と名を隠して浮浪者同然の暮らしをしていたのだ。そこに現れる、浅香、次郎丸、玉手と深い因縁を持つ合邦道心。さらに、誰にも明かせない秘密を抱えたまま消えた玉手が再び姿を見せた時、物語は予想もしない結末へと突き進む。

全席指定 一般3,500円／ユース(25歳以下)2,000円／高校生以下1,000円 [7月19日(日)一般発売開始]

企画制作 | ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎／一般社団法人樹来舎 製作 | ロームシアター京都 初演共同製作 | 穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT神奈川芸術劇場 主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

舞踊／DANCE

主催

『PLANET〈wanderer〉』
名和晃平×ダミアン・ジャレ

© Yoshikazu Inoue - Sandwich

京都発の国際的彫刻家 名和晃平と、世界で脚光を浴びる振付家
ダミアン・ジャレによる、『VESSEL』に続くコラボレーション作品。

2016年秋にロームシアター京都で世界初演を迎え、その後も世界中で再演を重ねている『VESSEL』に続く名和晃平×ダミアン・ジャレの異分野コラボレーション作品を、ふたたびロームシアター京都にて上演します。『VESSEL』と今作『PLANET』は二連祭壇画のように対をなすものとして位置づけられ、『VESSEL』では『古事記』における「黄泉の国（死者の世界）」と「高天原（神の住処）」の二つの世界を舞台としていたのに対し、『PLANET』では、高天原と黄泉の国の間にあるとされる「葦原中国（あしはらのなかつくに）」という、われわれ人間が住むとされる地上世界（惑星）を舞台とします。副題「wanderer」は、「PLANET」の語源となるギリシャ語が持つ「さまようもの」という意味と重なります。生者と死者の境界線で、人間の身体と、宇宙世界の構成要素や重力の不可分な関係を表現する一そこに日本庭園の現代的解釈などが混ざり合うという、日本の彫刻家と欧州の振付家の共同作業ならではの唯一無二の世界観を提示します。

日程

11月18日〔水〕
19日〔木〕

会場

サウスホール 振付 | ダミアン・ジャレ 舞台美術 | 名和晃平 ドラマトゥルク | プラプダー・ユン

ダミアン・ジャレ／Damien Jalet

振付家。ダンスをはじめ、彫刻家のアントニー・ゴームリーやミュージシャン、振付家、映画監督、デザイナーらと作品の共同制作をするほか、オペラや音楽ビデオの振付を手がけ、その活動は多岐にわたる。2013年パリ国立オペラにおいて、シディ・ラルビ・シェルカウイ、マリーナ・アブラモヴィッチと共同創作した『Boléro』を初演、好評を博し、フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。近作として、ジム・ホッジズらとコラボレーションした『THR(O)UGH』(2015)、『BABEL 7.16』(2016、「アヴィニオン演劇祭 2016」) などがある。



©Koen Bross

名和晃平／Kohei Nawa

彫刻家。1975年大阪府生まれ。京都を拠点に活動。京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授。1998年京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻を卒業。2000年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2003年同大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2011年東京都現代美術館で個展「名和晃平・シンセシス」開催。ピーズやブリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなどの現代的な素材を用いて、造形の新たな可能性を切り拓く。2009年より京都にて、建築家、デザイナーなどのクリエイターと、横断的な創造活動を行うプラットフォーム「SANDWICH」のディレクターをつとめる。



©Nobutaka Omote - Sandwich

全席指定 一般5,000円／ユース(25歳以下)3,000円／高校生以下1,000円 [7月18日(土)一般発売開始]
▲コンテンポラリーダンス演目セット券対象公演 (通常9,000円⇒7,000円)

製作 | パリ国立シャイヨー劇場 (フランス) 共同製作 | ロームシアター京都、東京芸術劇場

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 協力 | アンスティチュ・フランセ、京都芸術センター

新たな神話の誕生

小崎 哲哉

今秋、ダミアン・ジャレと名和晃平の
コラボレーション作品『PLANET
〈wanderer〉』(以下『PLANET』)が、パリの国立シャイヨー劇場における世界初演後にロームシアター京都で上演される。振付家のジャレと彫刻家の名和が初めて協働し、2016年秋にロームシアター京都で世界初演された『VESSEL』は、岡山(犬島)、横浜、パース、ブリュッセル、ロンドン、レンヌ、アムステルダム、アデレード、台北など世界各地を巡回し、2020年3月にはシャイヨー劇場で上演されて、各国で大絶賛された。

ジャレは、身体と運動についての思索をめぐらし、アントニー・ゴームリー、マリーナ・アブラモヴィッチ、ルカ・グアダニーノ、トム・ヨーク、マドンナら、異ジャンルの表現者と領域横断的な創作を行っている。名和は、彫刻というメディウムを熟考し、主題、素材、技法、造形のすべてにおいて、本質的な探究を続けている。共同制作に際してふたりは、互いの領域に根差した野心的な目標を掲げ、さまざまな困難を克服してそれを達成した。ひとことで言えば「ダンスと彫刻の融合」である。

ジャレと名和は求道者的な姿勢に共通点がある。「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」というポール・ゴーギャン的な、あるいはヴォルテールの『カンディード』的な根源的な問いが、ふたりの創作動機の奥底にある。この問いの答の一部は、各国の伝承や神話に求められるかもしれない。『VESSEL』が『古事記』などの創世神話に材を取ったのは、だから必然的なことだったと思う。

暗い舞台に、白い小島のような、火山の火口のような、女性器のような「VESSEL」(器)が浮かんでいる。舞台には本水が張られていて、頭部を隠した半裸のパフォーマーが、人間業とはとても思えないポーズや動きを見せる。舞台美術と振付は、想像力を駆使して創案され、技術的かつ科学的に検討され、試行錯誤の果てに完成したものだ。

『古事記』は「天地の初発の時、高天原に」三柱の神が生まれるところから始まる。世界はまだ形を成してはいず「浮かべる脂の如くして水母なす漂へる」状態だった。続いて二柱、さらに十柱の神が現れ、その次に生まれたイザナギとイザナミに天の沼矛を与えて国土をつくることを命

じる。ふたりは天の浮橋から沼矛を下ろして、水に浮かぶ脂のようなカオスをかき回す。矛を引き上げると、その先から塩がしたり落ちて島が生まれた。

『VESSEL』はその様を象徴的に描いていた。主題は「生成と消滅」であると言えるだろう。では、『VESSEL』と対になるという『PLANET』はどのような内容になるのだろうか。

『VESSEL』の舞台が『古事記』における黄泉国(死者の国)と高天原(神々の国)であったのに対し、『PLANET』では葦原中国(生者の国)が舞台になるという。葦原中国とは我々が暮らす地上世界のことで、名称から想像されるように当初は葦が生えているだけの荒野でしかなかった。前者が神々の誕生と国生みまでを描いていたとすれば、後者は天津神と国津神の争いや、国づくりに挑む人々の奮闘ぶりを描き出すのだろうか。

今回、『PLANET』には、小説家プラプダー・ユンがドラマトゥルクとして参加する。ユンは、哲学者ブレース・パスカルの「人間は考える葦である」をもじった「考える大地」という言葉を中心的なキーワードとして提案したという。察するに、神話的世界を舞台としながら、人新世に入って危機的問題が噴出する現代、そして近未来の世界を、人間と大地(地球)との関係性を軸に批判的に表象するのではないだろうか。

クロード・レヴィ=ストロースをはじめとする文化人類学者は、日本、東南アジア、南北アメリカ、エジプトなどの神話に共通するところが多々あると論じている。『PLANET』は『VESSEL』と同様に、地域や民族を超えた普遍的な物語となるに違いない。エイミリオス・アラボグラー卓抜なパフォーマーが出演し、音楽、衣裳、照明は世界的なクリエイターが担当する。新たな神話の誕生に期待したい。

小崎 哲哉 おさき かつや

ジャーナリスト／アートプロデューサー。ウェブマガジン「REALKYOTO」発行人兼編集長。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員。同大学舞台芸術研究センター主任研究員。2003年現代アート雑誌「ART iT」を創刊し、2013年にはあいとりエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。編著書・著書に、写真集「百年の愚行」、「続・百年の愚行」、「現代アートとは何か」等がある。

主催

ロームシアター京都開館5周年記念事業

ハンブルク・バレエ団 「ベートーヴェン・プロジェクト」



©Kiran West

2020年に生誕250年を迎えるベートーヴェンの楽曲と心象を描く 京都だけで特別に上演される日本初演のプロジェクト

緻密な演出と劇的な仕掛けによって人間を描き出し、あるいは鋭い美意識と解釈をもって音楽の中に豊かな感情世界を見出してみせるジョン・ノイマイヤー。2015年に第31回「京都賞」（思想・芸術部門）を受賞したことから、京都との縁が生まれ、2018年2月にはガラ公演《ジョン・ノイマイヤーの世界》の上演が、ロームシアター京都で実現しました。今回上演するのは、2018年に世界初演されたばかりの「ベートーヴェン・プロジェクト」の日本初演。2021年の来日公演では、京都だけで特別に上演される演目です。ベートーヴェンの音楽の世界を探索するノイマイヤーの長年の想いを実現したプロジェクトをもって、再び京都に登場します。

振付・演出 | ジョン・ノイマイヤー **出演** | ハンブルク・バレエ団
演奏 | 大阪フィルハーモニー交響楽団

ジョン・ノイマイヤー／John Neumeier

1939年、米国ウィスコンシン州ミルウォーキー生まれ。生地でバレエを始め、その後シカゴで学ぶとともに、ミルウォーキーのマルケット大学に進学、ここで最初の振付作品を創作した。その後さらにコペンハーゲンやロンドンの英国ロイヤル・バレエ学校でバレエを学び、1963年にシュツットガルト・バレエ団に入団。ソリストとして活躍するとともに、振付を続けた。1969年、フランクフルト・バレエ団芸術監督に就任。1973年、ハンブルク・バレエ団芸術監督、主任振付家に就任。ハンブルク・バレエ団はドイツをリードするカンパニーに成長し、国際的な評価を獲得。振付家としては、現代的でドラマティックな作品を追求するいっぽうで、バレエの伝統を守り続けている。2015年、稲盛財団より京都賞（思想・芸術部門）を授与された。



©Kiran West

全席指定 S席20,000円／A席15,000円／B席8,000円／C席6,000円／D席4,000円／
ユースS席（25歳以下）10,000円 [9月27日（日）一般発売開始]
●ロームシアター京都5周年記念セット券対象公演（通常31,000円⇒25,000円）

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

主催

フランソワ・シェニョー&ニノ・レーネ 「不確かなロマンス —もう一人のオーランドー—」



© Nino Laisné

スペイン音楽・舞踊の伝統を、ジェンダーを超えた 独舞・独唱でたどる旅。世界から熱視線を集める新時代の 振付家による、待望の来日公演！

KYOTO EXPERIMENT2018の公演も記憶に新しいフランスの俊英ダンサー・振付家、フランソワ・シェニョーが3度目の来日を果たします。今作は、スペイン音楽・舞踊の伝統に現代のジェンダー観を重ね合わせた芸術作品として2017年に初演され、世界各地で称賛された話題作。シェニョーとアーティスト ニノ・レーネが共同で構想し、スペインの音楽と舞踊の歴史を参照しながら、トランスジェンダーの青年貴族が主人公のヴァージニア・ウルフの小説『オーランドー』に着想を得て、シェニョーが“もうひとりのオーランドー”となり、性を超越し、外見とアイデンティティを変えながら見事なソロダンスと歌唱を繰り広げます。テオルゴ、バンドネオン、ヴィオラダガンバ、パーカッション、バロックギターの音色に乗せて、シェニョー自身が歴史／芸術／社会のごとく絶え間なく変化し続ける圧巻の舞台です。

音楽デザイン・音楽監督・演出 | ニノ・レーネ **コンセプト・振付** | フランソワ・シェニョー
ダンス・歌唱 | フランソワ・シェニョー

フランソワ・シェニョー／François Chaignaud

振付家。フランス・レンヌ生まれ。6歳からダンスをはじめ、パリ国立高等音楽・舞踊学校卒業後、ボリス・シャルマツ、ジル・ジョバンなど多くの振付家やダンサーとコラボレーションを展開。『不確かなロマンス —もう一人のオーランドー』（2017年）のような官能的かつ崇高な作品で、ダンスにおける肉体的な厳密さ、歌の何かを喚起する力、さらには、歴史的な言及の間に立ち上がる空間において、身体の可能性を追求してきた。セシリア・ベンゴレアと共に結成したカンパニーVlovajob Pruでは『TWARK』、『DUB LOVE』などを世界各国で発表し、リヨン・オペラ・バレエ、ロレーヌバレエ、ヴッパータル舞踊団など欧州の重要なダンスカンパニーにも作品を提供している。



©Laurent Poleo Garnier

ニノ・レーネ／Nino Laisné

アーティスト。フランス・ボルドーのÉcole Supérieure des Beaux-Arts de Bordeauxでビデオと写真を専攻。在学中から南アメリカの伝統曲を中心としたギターの演奏も学び、現代美術、音楽そして映画を組み合わせた作品を創作することとなる。彼の作品は多数の国で発表され、レジデンスによる新作制作の委嘱も受けている。またビデオ・プロジェクトではフランスのマルセイユ国際ドキュメンタリー映画祭、香港のPapay Gyro Nights Art Festivalなど、各国の映画館やフェスティバルで上映され、注目を集めている。マドリッドのアカミー・ド・フランスのメンバーであり、カサ・デ・ヴェラスケスのレジデント・アーティスト。



©Magali Pomier

全席指定 一般4,000円／ユース（25歳以下）2,500円／18歳以下1,000円 [7月18日（土）一般発売開始]
▲コンテンポラリーダンス演目セット券対象公演（通常9,000円⇒7,000円）

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
共同招聘 | 彩の国さいたま芸術劇場、北九州芸術劇場 助成 | 一般財団法人地域創造、アンスティチュ・フランス パリ本部

主催

ロームシアター京都開館5周年記念事業

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4

「雅楽」



©T.Tairadate



Noism0『鏡の中の鏡』撮影：篠山紀信

日本の伝統音楽“雅楽”と現代舞踊が出会い、伝統を更新する。 開館5周年を寿ぐ、京都ならではの華やかなコラボレーション！

ロームシアター京都の開館5周年記念日を華やかに彩るスペシャルなコラボレーション公演。2017年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」第4弾です。古典作品はもちろん、現代作品の演奏にも積極的に取り組む雅楽演奏団体・伶楽舎に、りゅーとびあ専属舞踊団Noism Company Niigataとその芸術監督である金森穰氏をコラボレーターに迎え、新しい“雅楽”のかたちを探ります。それは「雅楽」の新たな魅力を引き出し、京都らしい「温故知新」を体現する舞台となるはずです。前半は伶楽舎および京都の雅楽演奏団体・音輪会による雅楽演奏、後半はNoism0と伶楽舎によるコラボレーションを予定しています。

演奏 | 伶楽舎、音輪会 演出振付 | 金森 穰 出演 | Noism0（ノイズムゼロ）

伶楽舎／Reigakusha

雅楽演奏グループ。1985年に芝祐靖（元芸術院会員、2017年文化勲章受章）が創立し、長らく音楽監督を務めた。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の委嘱や演奏など、幅広い活動を展開。現代曲、復元曲等のCDも多数録音。国内外で演奏活動を行う。2002年中島健蔵音楽賞特別賞、芸術祭レコード部門優秀賞受賞。2016年佐治敬三賞受賞。他に、解説入りの親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及に努め、近年は小中学生のためのワークショップや演奏会に積極的に取り組み、国内各地で公演している。

金森 穰／Jo Kanamori

演出振付家、舞踊家。りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督、Noism 芸術監督。17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。NDT2在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家・演出振付家として活躍後帰国。04年4月、日本初の劇場専属舞踊団Noismを立ち上げる。京都芸術センター運営委員。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞、第60回（2018年度）毎日芸術賞ほか受賞歴多数。



撮影：篠山紀信

全席指定 S席5,000円／A席3,000円 [9月27日（日）一般発売開始]

※ユース（25歳以下）はご招待いたします（申込方法は決まり次第、劇場WEBサイトでお知らせします）

●ロームシアター京都5周年記念セット券対象公演（通常31,000円⇒25,000円）

主催 | 京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団） 特別協賛 | 公益財団法人 稲盛財団

音楽 / MUSIC

主催



撮影：寺司正彦／提供：新国立劇場

ウィリアム・ケントリッジ演出「魔笛」を2018年に続き上演！

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」の関西公演は2008年より始まり、今年で13回目を迎えます。今年の公演は、2018年に続き『魔笛』を上演します。“ジングシュピール”（歌芝居）として親しみやすいこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲や、夜の女王の有名なアリアなど、聴きどころが満載です。ウィリアム・ケントリッジ演出のこのプロダクションは、ケントリッジならではの人間哲学に満ち、ビジュアルアートとしての迫力も相まって、観客に多くの問いを投げかけます。ケントリッジは日本で初の大規模展覧会（京都国立近代美術館）、京都賞受賞など京都の地と縁が深く、2018年の上演でも大きな反響を呼びました。

演目 | モーツァルト作曲：歌劇「魔笛」【全2幕】（原語上演／日本語字幕付）

指揮 | 園田隆一郎

演出 | ウィリアム・ケントリッジ

美術 | ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン

衣裳 | グレタ・ゴアリス

照明 | ジェニファー・ティプトン

合唱 | 新国立劇場合唱団

管弦楽 | 京都市交響楽団

ザラストロ：金子 宏 タミーノ：鈴木 准

弁者・僧侶Ⅰ・武士Ⅱ：町 英和 僧侶Ⅱ・武士Ⅰ：秋谷直之

夜の女王：安井陽子 パミーナ：馬原裕子

侍女Ⅰ：増田のり子 侍女Ⅱ：小泉詠子 侍女Ⅲ：山下牧子

パパゲーナ：九嶋香奈枝 パパゲーノ：近藤 圭

モノスタトス：升島唯博 ほか

全席指定 高校生以下 2,200円／一般4,400円

※残席がある場合に限り、一般にもチケットを販売いたします

会場

メインホール

主催 | 京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場

協賛 | ローム株式会社 助成 | 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

日時

10月27日〔火〕

28日〔水〕

13:00開演

(両日)



音楽の可能性を問い直し拡張するバンド、サンガツがロームシアター京都に初登場！

ポスト・ロックを牽引するジム・オルークのプロデュースによりデビューした東京拠点のバンド、サンガツ。音楽の枠にとらわれない、広く音を使った表現を創造することを目指した独自の活動で、静かに注目を集めています。チェルフィッチュなどの演劇カンパニーやダンス・映画への参加など、他ジャンルとのコラボレーションも多数手掛ける彼らがロームシアター京都で行うのは、その日・その場だけのために作曲された新作演目。「遊び」の中から音楽の新しい文法を一つずつ作り直し、有り得べきもう一つの音楽の可能性を提示します。

メンバー | 小泉篤宏（ギター）、小島創太郎（ギター）、千葉広樹（ベース）、宿谷一郎（ドラム）、富樫大樹（ドラム）、田中佑司（ドラム）、石上宗太郎（ドラム）

全席自由 前売3,000円／当日3,500円 [発売日未定]

主催 | サンガツ 共催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

主催

ロームシアター京都開館5周年記念事業
小澤征爾音楽塾
オペラ・プロジェクトXIX
G.プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」
ROHM CLASSIC SPECIAL

日程

2021年
3月19日 [金]
21日 [日]

会場

メインホール



世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本、中国、台湾、韓国などでのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都府内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演も開催します。

音楽監督 | 小澤征爾 **演出** | ディヴィッド・ニース
装置・衣裳 | ロバート・パージオーラ **管弦楽** | 小澤征爾音楽塾オーケストラ

演目 | G.プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」【全4幕】新制作（原語上演/字幕付）

料金・発売日未定

主催 | 小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン、京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
企画・制作 | ヴェローザ・ジャパン 共催 | 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

共催

サンガツ「?Music?»

日時

2021年
2月19日 [金]
19:30開演
20日 [土]
15:30開演

会場

ノースホール
ほか

主催

京都が世界に誇る才能が結集！ ここでしか体験できない、新しいオーケストラコンサート

2021年は、イーゴリー・ストラヴィンスキーの没後50年。彼が活躍した時代のロシアにおいて、新しい舞台芸術の潮流が生まれました。それは、20世紀初頭に産声をあげ、現代の舞台芸術界のみならず、絵画や音楽、ファッションなどあらゆる芸術運動に影響を与えたバレエ団「バレエ・リュス」です。その活動は現代においてなお、伝説的に語り継がれており、現代音楽の祖とも言われるエリック・サティやストラヴィンスキーなど、当時最先端の才能とコラボレーションを行ない、総合舞台芸術としてのバレエを築き上げていきました。そのようなバレエ・リュスのスピリットにインスパイアされ、音楽・舞踊・美術を融合した“パフォーマティブコンサート”を、京都が世界に誇る才能を結集させて生み出します。

指揮 | 園田隆一郎 **演出** | 石橋義正 **管弦楽** | 京都市交響楽団 **歌** | 森谷真理

予定曲目 | 「花火」（ストラヴィンスキー） 「牧神の午後への前奏曲」（ドビュッシー）
歌曲集「シェエラザード」（ラヴェル） 「火の鳥」（ストラヴィンスキー） ほか

園田隆一郎／Ryuichiro Sonoda



©Fabio Parenzan

2006年、シエナのキジアーナ夏季音楽週間『トスカ』を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはベネザロのロッシーニ・オペラ・フェスティヴァル『ランスへの旅』の他、カターニアのベッリーニ大劇場管弦楽団の演奏会などを指揮した。その後国内外のオペラへの出演、オーケストラとの共演を重ね、オペラと交響曲の両分野で活躍する指揮者の一人である。2017年度第16回斎藤秀雄メモリアル基金賞受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。

石橋義正／Yoshimasa Ishibashi



1968年京都生まれ。TV番組『バミリオン・プレジャー・ナイト』『オー!マイキー』や、映画『狂わせたいの』『ミロクローゼ』等を監督・製作。伝統芸能やダンスとメディアテクノロジーを融合した舞台作品、美術館でのインスタレーションの発表など、テレビ、アート、舞台、映画と様々なジャンルを渡って独自の創作活動を展開する。京都市立芸術大学美術学部教授。

京都市交響楽団／City of Kyoto Symphony Orchestra



©井上写真事務所 井上嘉和

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。2015年「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月ヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアー等を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等を受賞。2020年4月からは第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッドが就任し、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

森谷真理／Mari Moriya



©武藤章

武蔵野音楽大学大学院及びマネス音楽院修了。『魔笛』夜の女王でメトロポリタン歌劇場デビュー後、欧米各地の劇場にて出演を重ねている。国内でも、二期会『ばらの騎士』元帥夫人、『蝶々夫人』タイトルロール、日生劇場『後宮からの逃走』コンスタンツェ、びわ湖ホール『ワルキューレ』ジークリンデ等に出演、いずれも絶賛を博す。「第九」、マラー「復活」「千人の交響曲」等のソリストとしても活躍。また、19年「天皇陛下御即位を祝う国民祭典」にて国歌独唱を披露する栄誉に浴した。小山評定ふるさと大使。二期会会員。

日時

2021年
1月17日 [日]
14:00開演

会場

メインホール

全席指定 S席6,000円／A席4,000円／B席3,000円／ユースS席（25歳以下）3,000円

[9月27日（日）一般発売開始]

●ロームシアター京都5周年記念セット券対象公演（通常31,000円⇒25,000円）

主催 | 京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

パフォーマティブコンサート「火の鳥」

京都市交響楽団 × 石橋義正

ロームシアター京都開館5周年記念事業

人形劇王国チェコから、 歴史ある 人形劇団が来日！

ユネスコ無形文化遺産にも登録されているチェコ人形劇。中でも今、最も面白い「アルファ人形劇場」が来日します。演出家トマーシュ・ドヴォジャーク監督の最新作である本作は、世界的に著名なメキシコのゾロ



伝説を、古典的なマリオネットとマリアッチ（メキシコ民俗音楽楽団）形式の楽士による陽気な生演奏でリズムカルかつスピーディー、ユーモラスに描いた作品。ことば頼らずとも『快傑ゾロ』の魅力あふれるストーリーがしっかり伝わり、こどもたちの夏休みを豊かに彩ります。

アルファ人形劇場／Divadlo Alfa

世界遺産の町並みと芸術文化の魅力あふれるチェコ共和国は、人形劇が盛んな国としても知られています。なかでもビルゼン市は、人形美術家ヨゼフ・スクパや映像作家イジー・トルンカを輩出した、チェコを代表する人形劇の町です。そのビルゼン市を拠点とするアルファ人形劇場は、チェコの伝統的作品のみならず、プーシキンやシェイクスピアなど他国の古典や新作にも取り組みながら、高い芸術性とエンターテインメント性で世界を魅了する、チェコ最高峰の人形劇団です。

全席自由 大人2,500円／こども（18歳以下）1,000円
こども＋おとなペア3,000円 [5月16日（土）一般発売開始]

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 協力 | ブーク人形劇場

主催

ブレインシアター in Summer 2020 ステージプログラム
日・チェコ交流100周年
『快傑ゾロ』アルファ人形劇場
from チェコ共和国

日時

8月9日〔日〕
11:00／15:00
開演

会場

ノースホール



撮影：山地憲太



今年も開催！家族や友達と楽しめる、 ロームシアター京都の夏休み特別企画

毎年恒例の大好評イベントを今年も開催します。オーケストラのコンサート、劇場ツアー、こども向けワークショップ、演奏パフォーマンス、マルシェ…など、“気軽に遊べる劇場”として、こどもから大人まで劇場を満喫できるもりだくさんの2日間。ご家族、お友達を誘ってロームシアター京都におこしください！

参加アーティスト | 京都市交響楽団、トナカイサインズ ほか

参加無料 予約不要（一部有料、要事前予約）

京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート

京都市交響楽団による0歳から入場可能な家族で楽しめるコンサート

日時 | 15日〔土〕11:00／14:00開演 会場 | メインホール 指揮 | 垣内悠希

全席指定 小学生以上800円／未就学児無料 [5月16日（土）一般発売開始]

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 特別協賛 | ローム株式会社

総合 / MULTIDISCIPLINE

主催

本プログラムの5月の開催は見送りとなりました。開催延期を検討しています。
詳細は決まり次第、劇場WEBサイトでお知らせします。

ロームシアター京都×京都市文化会館5館連携事業

1 | 『紙のサティさん』アトフリ・シアター from ポーランド



カサカサ、ポロロン♪ エリック・サティの美しい世界

フランスの作曲家エリック・サティの音楽をもとに作られた、1歳から楽しめるチャームングな作品がポーランドからやってきます。大きくて真っ白な紙をねじったり、やぶったり、踊ったり…。ガサガサ、カサカサ、ビリリ、紙の音とピアノの音が混ざり合って、やがてサティさんの幻想的な世界へ。

日時・会場 | 5月5日〔火・祝〕京都市東部文化会館 創造活動室
6日〔水・休〕京都市右京ふれあい文化会館 創造活動室
両日11:00、15:00開演 推奨する年齢 | 1～5歳のこどもたちと大人

ロームシアター京都×京都市文化会館5館連携事業

2 | 『リトルトップ～はじめてのサーカス～』
スターキャッチャーズ／スーパーファン from スコットランド



©Jassy Earl

赤ちゃんのためのはじめてのサーカス

赤ちゃんとその家族のための、小さなサーカス。自分の体を動かす楽しさやあぶなさを発見し始めるこどもたちに向けた作品です。ビッグトップ（サーカステント）の魔法がかかったカラフルな心地よいテントで、とんだりまわったり…。はじめてのサーカスを体験しましょう！

日時・会場 | 5月11日〔月〕京都市西文化会館ウエスティ 創造活動室
13日〔水〕京都市北文化会館 創造活動室
14日〔木〕京都市呉竹文化センター 創造活動室
各日11:00、14:00開演 推奨する年齢 | 0～1歳半のこどもたちと大人

3 | 『はじめての1歩』ミッドナイトシアターカンパニー from アイスランド



©Solla Matt

ニンナは5歳、初めての田舎暮らし

ニンナは冒険といたずらが好きな5歳の女の子。お父さんのもとを離れて、はじめての田舎暮らしに出発します。新しい世界に踏み出すニンナの仲間は、犬のスナティや動物たち。好奇心いっぱいのニンナの物語を、人形や小道具を使って鮮やかに描く、セリフのない音楽劇です。

日時 | 5月10日〔日〕11:00、15:00 開演
会場 | ノースホール 推奨する年齢 | 2歳以上のこどもたちと大人

主催 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館）、京都市
後援 | 京都市教育委員会、公益社団法人京都市保育園連盟、公益社団法人京都市私立幼稚園協会 広報・運営協力 | 人形劇団京芸
2020国際子ども舞台芸術・未来フェスティバル 参加公演

主催

ロームシアター京都×京都芸術センター

U35創造支援プログラム“KIPPU”



① photo by Takuya Oshima



②『蜜をそ削ぐ』(2019年 STスポット) photo takaramahaya

③『ささやかなさ』(2019年) ©Dan Åke Carlsson

次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく！
新たな創造支援プログラムの3年目。

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム“KIPPU”。3年目は、中川裕貴（京都）、シラカン（神奈川）、スペースノットブランク（東京）の3組を採択しました。チェロという楽器の中に潜む「声」を様々な演奏手法によって引き出し、枠組みや境界、フレームの存在／非存在を考えることを「音楽コンサート／ホール」の形式の中で試みる活動を行う中川裕貴。この世界に存在はするけれど目に見えないモノ・コト（例えば四季、死、花粉症）を過剰な見立てや奇抜な美術の中、独特な言い回しの会話を中心に可視化させ、観客に向け表現するシラカン。新しい表現思考や制作手法を開発しながら舞台芸術の在り方と価値を探究し、環境や人との関わり合いと自然なコミュニケーションを基に有機的な作品を創造するスペースノットブランク。個性あふれる3団体のフレッシュな感覚によって、ノースホールにどのような空間が立ち上がるのか、ご期待ください。

参加団体 | ①中川裕貴（京都）②シラカン（神奈川）③スペースノットブランク（東京）

① 中川裕貴「アウト、セーフ、フレーム」

「断断が“キク”」、音は交じり合う。この場所での異能の「コンサート」について。

チェロを使用した作曲／演奏／演出活動を行う中川裕貴による新作コンサート。このコンサートでは、演奏という行為、そこから生まれる音、そして音が放たれる場所について思考／試行を続けてきた中川による、音楽コンサート／ホールの中でしか成し得ない新しい「作曲作品」を上演します。

中川裕貴／Yuki Nakagawa

1986年生まれ。演奏と演出をチェロ／電気／適当な録音を使用して行う。演奏行為とそれによって現れる音のあいだに在る「距離」を測ること、また演奏をしながら自身が「そこ／ここ」でどのように存在するかを問うこと（またそれへの頓智）をテーマとする。矛盾した行為（動きながら自分で自分についての距離を測る）が発する音楽への襲来と、音楽からの襲来（応答）について、演奏という行為を通じ考えている。またソロ活動と並行して（中川裕貴）「バンド」活動や、鳥丸ストロークロックを代表とする舞台音楽、その他アーティストとのコラボレーションもいくつか行っている。

全席自由 一般3,000円／ユース（25歳以下）2,000円／高校生以下1,000円
[5月15日（金）一般発売開始] ※②③は料金、発売日未定

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市 ※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市で開催します。

column

17世紀末ごろから18世紀にかけての英国では、人形劇が史上空前のブームだった。劇場ではもちろん、ロンドンの街を歩けば広場や道端などでも人形劇を鑑賞可能で、大人の観客たちがこぞって夢中になっていたという。

ブームの理由は主にふたつある。まずひとつは、英国の伝統的な人形劇である「パンチ&ジューディ」のような下方から人形に手を入れて遣うバベットに加え、上方から糸で操るマリオネットがイタリアから輸入され一世を風靡していたこと。もうひとつは、英国内で人間俳優による演劇が厳しい検閲の対象となっていたため、法の網目をかいくぐって上演可能な媒体として人形劇が選び取られたことだ。

その結果、当時の人形劇は下ネタや暴力的な描写、痛烈な社会風刺などの過激な表現を得意とし、人間の俳優による演劇を凌駕するほどの人気を誇っていた。こうした状況は（もちろん各国で様々な差異はあるものの）ヨーロッパのいたるところで多発的に起きていた事態である。

その中でも、とりわけ興味深いのはチェコの事例だろう。今日、チェコといえば世界で最も人形劇が盛んな国のひとつとして知られている。それはなぜか。

そもそもチェコは、1620年から第一次世界大戦後の1918年に独立するまでオーストリア＝ハンガリー帝国の属領で、その間、演劇は上流階級の一部の人たちのためにドイツ語やフランス語で上演されることがほとんどであった。その状況下で、唯一人形劇のみがチェコ語で上演され、非上流階級でも比較的自由に見ることが可能な演劇だったといわれている。つまりチェコの人々にとって、人形劇は彼らが彼らであることの証であり、それを盛んに上演することは昨日から今日、今日から明日へと文化を継承しようとする営みに他ならない。

もちろん伝統を守る、文化を繋ぐという作業は決して簡単なことではない。2019年末に日本でも公開されたドキュメンタリー映画『台湾、街かどの人形劇』では、台湾の伝統的な人形劇である「布袋戲」を巡る伝承とその困難さが取り上げられていた。布袋戲は長らく台湾語で演じられてきたが、近年では台湾話話者が減っており、後継者探しも困難な状況だという。映画の中では、布袋戲が公益な資金を得ながら

海外に活動を広げる模様も描かれるが、おそらく世界中にこれと似た事例が存在している。それを踏まえると、既に国際的にも評価が高く、舞台だけでなく実写映画やアニメーションの世界でも長らく存在感を発揮し続けているチェコの人形劇のあり方に、われわれが学ぶことは決して少なくないはずだ。

その一方で日本では、人形劇というと子ども向けの幼稚なものというイメージをもつ人が多い。なぜそうなったのかについての歴史的経緯を説明する紙幅はないが、人形たちの見た目のかわいらしさを〈真に受けて〉しまっているケースが少なくない気がする。

しかし考えてもみてほしい。日本で最も有名なテレビ人形劇のひとつである『ひょっこりひょうたん島』は、人形こそ二頭身のキャッチーな造形だが、物語は政治批判、社会風刺にあふれた極めてポリティカルなコメディである。人間俳優が演じていたら問題になるような内容でも、人形のかわいい見た目を借り、子ども向けというイメージを積極的に〈利用〉することで『ひょっこりひょうたん島』は優れた作品となり得たのだ。残念ながら今日の日本でここまでの成功例は見当たらないが、そのアプローチ自体はヨーロッパの人形劇が何百年も前から得意としてきたやり方とよく似ている。

様々なエンターテインメントがしのぎを削る現代において、人形劇が改めて大ブームを巻き起こすというのはちょっと想像しがたい。それでも、見た目のキャッチーさと内容の過激さが両立し得る稀有なメディアとして、一定の存在感を発揮し続けるはずだ。その優れた一例を日本にいながらにして観劇できる機会があるというならば、喜んで劇場へ足を運びたいとわたしは思う。

菊地 浩平 きくち こうへい

1983年埼玉県鴻巣市生まれ。日本学術振興会特別研究員（PD）、早稲田大学文化構想学部 表象・メディア論系助教を経て、現在は同文学学術院等で非常勤講師。2019年に一般社団法人日本人形玩具学会学会賞、早稲田大学ティーチングアワード総長賞を受賞。単著に『人形メディア学講義』（河出書房新社、2018）がある。

チェコの人形劇に学ぶこと

菊地 浩平

学び／参加

主催

地域の課題を
考える
プラットフォーム

ロームシアター京都が2017年度から実施しているプロジェクト「地域の課題を考えるプラットフォーム」。劇場が舞台芸術のためだけに存在するのではなく、地域生活に根ざした多様な人々をつなぐハブとしての役割を果たすべく、芸術文化の視点から地域コミュニティの活性化を図ることを目的としています。2019年度からは、障害の有無を超えて、誰にでも開かれている劇場とはどういうことか、障害当事者やその関係者とともに問い直す試みをはじめ、引き続き福祉施設等へのヒアリング、勉強会を行うほか、特定の演目への障害者の鑑賞支援等を行う予定です。

日程

通年

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

ロームシアター京都と京都市ユースサービス協会が連携し、15～30歳の若者に、キャリア形成のきっかけになるよう、劇場の仕事を紹介、体験してもらうプログラムです。夏の恒例イベント、ロームシアター京都全館で行う「プレイ!シアター in Summer 2020」にて、観客誘導、会場づくり、アーティスト対応等の研修を行います。このプログラムを通して、劇場にとどまらず社会で働く、「未来のわたしの姿」のイメージを膨らませてみませんか？



ロームシアター京都×
京都市ユースサービス協会連携事業
未来のわたし
劇場の仕事

日程

7-8月

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

主催

劇場の学校
プロジェクト

2019年度より実施している中学1年生～18歳を対象にした「劇場の学校プロジェクト」。国内外の第一線で活動しているアーティストやエンジニアを講師に、「演劇」「舞踊」「メディア・パフォーマンス」の3つのコースを設け、初年度は70名ほどが参加しました。今年度は、講師の作品とその背景にある考え方に触れながら、実際に身体を動かして、自分の頭で考えて、作品づくりまで体験するカリキュラムを設けます。この先10年・20年を見据えた日本の舞台芸術を担う創造性あふれる人材を育成します。

講師 | [演劇コース] 岡田利規(演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰)
[舞踊コース] 木田真理子(ダンサー)
[メディア・パフォーマンスコース] 伊藤隆之(YCAM InterLabディレクター)、石橋義正(映像作家／演出家)

日程

7-8月

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市



Photo:Toshiaki Nakatani

2019年度に引き続き、ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」での特設ステージを舞台に、多彩なイベントや飲食が楽しめる空間「OKAZAKI PARK STAGE」が登場します。

参加無料 予約不要

主催

OKAZAKI PARK
STAGE 2020

日程

10月(調整中)

会場

ローム・スクエア 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

KYOTO
EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2020

Photo by Yuki Moriya

KYOTO EXPERIMENTは、2010年より毎年開催している京都発の国際舞台芸術祭。世界各地の「EXPERIMENT=実験」的な舞台作品を中心に紹介し、演劇やダンス、音楽のみならず、美術などのジャンルを越境した先鋭的な表現を約1ヶ月間、京都を舞台に展開します。2020年からは、共同ディレクター3名によるプログラムが新たにスタート。既存の形式を飛び越え、舞台芸術の新しい可能性に挑戦する表現に注目します。さらに、観客との多彩な交流プログラムを推進し、フェスティバルが舞台芸術を通じた対話と思考のプラットフォームとなることを目指します。

日程

10月10日[土]
-11月3日[火・祝]
(25日間)

会場

サウスホール、ノースホール、
京都芸術センター、
京都芸術劇場 春秋座、
THEATRE E9 KYOTO ほかプログラムの発表は7月を予定 <https://kyoto-ex.jp>

主催 | 京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術大学 舞台芸術研究センター]

主催

ホリデー・
パフォーマンス

Photo:Toshiaki Nakatani

2019年度よりはじまった、音楽を中心としたパフォーマンスを無料でお楽しみいただけるシリーズです。ジャンルにとらわれない多様な音楽やパフォーマンスを紹介し、日常の中で気軽にアートに触れる機会を創出します。

参加無料 予約不要

日程

通年[全3回]

会場

3階共通ロビー ほか

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市



マルシェ



京都岡崎 蔦屋書店



BOOK & ART GALLERIAでの展示



ローム・スクエア

ロームシアター京都アセンブリープログラム

ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”＝ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 蔦屋書店（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会などのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

過去開催したアセンブリープログラムの一例 | マルシェ（岡崎おいしい市、岡崎いどりマルシェ、京の手づくりマルシェ ほか）／ワークショップ（ストール染め、抹茶を知って楽しむワークショップ、手作りうちわ ワークショップ ほか）／トークイベント／読書会／DJ イベント ほか



ミュージックサロン

ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた120インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナー、公演に関連した展示などを随時開催しています。

営業時間 | 10:00～19:00
場所 | パークプラザ3階
料金 | 入場無料
 ※一部整理券が必要な場合あり
 ※5月31日まで休室

共同運営 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 共催 | ローム株式会社

ロームシアター京都 リサーチプログラム



プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。2020年度の重点リサーチテーマは、「現代における伝統芸能」「子どもと舞台芸術」、「舞台芸術のアーカイヴ」です。

リサーチャー募集期間 | 2020年3-4月

メンター | 吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授）
 若林朋子（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

6月中旬
—2021年3月



Vol.01（2018年3月発行・既刊）

Vol.02（2018年12月発行・既刊）

【特集】集まりの現在

Vol.03（2019年3月発行・既刊）

【特集】子ども／子供／コドモを考える

Vol.04（2019年10月発行・既刊）

【特集】古典のダイナミズム

Vol.05（2020年3月発行予定）

【特集】観光と芸術

Vol.06（2020年9月発行予定）

【特集】記憶／記録／アーカイヴ（仮）

Vol.07（2021年3月発行予定）

【特集】未定

機関誌 「ASSEMBLY（アセンブリー）」 Vol.6'7

年2号発行予定

ロームシアター京都自主事業として2017年度より実施しているプログラム「リサーチプログラム」、「いまを考えるトークシリーズ」と連携する機関誌です。「リサーチプログラム」に参加するリサーチャーによる寄稿などを掲載しています。



機関誌「ASSEMBLY」と連動したトークシリーズ。多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えていきます。

参加無料 事前申込優先

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

通年 [全4回]

3階共通ロビー（予定）

「いま」を考える トークシリーズ Vol.11～14

TICKET

チケットのご購入について

【WEB】オンラインチケット 24時間購入可／要事前登録（無料）

※詳しくはロームシアター京都または京都コンサートホールのWEBサイトへ

URL <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

【電話・窓口】ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL 075-746-3201（窓口・電話とも10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く）

【電話・窓口】京都コンサートホール チケットカウンター

TEL 075-711-3231（窓口・電話とも10:00～17:00／第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日）

CLUB

京都コンサートホール・ロームシアター京都 Club会員募集中！

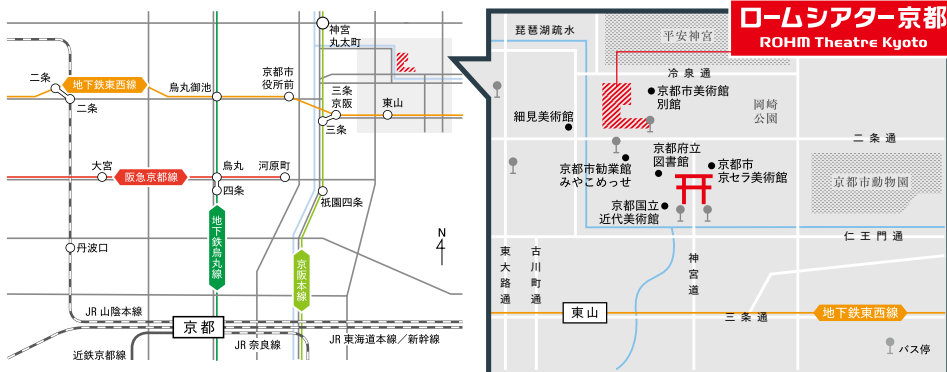
いつでもご入会いただけます。

入会金	年会費	会員期間
無料	1,000 円（税込）	1年間 （4月1日～翌年3月31日）

- | | | |
|---|--|---------------------------------|
| 特典
①
チケット
優先予約
※指定公演のみ | 特典
②
チケットの
割引販売
※指定公演のみ | 特典
③
公演情報等
のご送付 |
|---|--|---------------------------------|

詳細はロームシアター京都チケットカウンター（TEL.075-746-3201）までお問合せください。

ACCESS



〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

- 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
- 京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車2番出口より徒歩約13分
- 市バス32・46系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ」下車すぐ
- 市バス5・100・110系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
- 市バス31・201・202・203・206系統「東山二条 岡崎公園口」下車徒歩約5分

CONTACT

TEL 075-771-6051（代表） **075-746-3201**（チケットカウンター）

FAX 075-746-3366 **URL** <https://rohmtheatrekyoto.jp/>

f @ROHMTheatreKyoto **t @RT_Kyoto** **i @rohmtheatrekyoto**